

手術、放射線治療成績同じ

病院の 実力

～茨城編 219

前立腺がん

今回は前立腺がんを取り上げる。一覧表には、2025年の手術件数のほか、放射線治療を受けた人数、そのうち、

がんの形に合わせた照射が可能な「強度変調放射線治療（IMRT）」と超寡分割照射を受けた人数をそれぞれ掲載した。

前立腺がんの年間の新規患者数は男性のがんで最も多い約10万人で、高齢で見つかるケースが大半だ。がんのみを死因とした場合の10年生存率は84%で、他のがんより高い部類に入る。

前立腺は精液の一部を作る機能がある。膀胱や直腸に隣接し、中を尿道が通っている。がんの早期は自覚症状がないことが多く、採血してがんのリスクを調べるPSA検査を定期的に受けることが大切だ。

手術は前立腺と精のうを全摘するのが一般的だ。おなかの数か所の穴を開けて行う腹腔鏡手術が基本で、その一つのロボット支援手術が浸透している。体の負担が開腹手術より小さく、7～10日ほどの入院で済む。

手術と放射線の治療成績はほぼ同じとされる。治療後は排尿や勃起、直腸に障害が生じる恐れがある。副作用の影響も含めて、どの治療を受けるかを医師とよく相談して決めてほしい。すぐに治療を始めなくてもよい場合は、定期的な経過観察を続ける監視療法が有効となる。

放射線治療のうち、体外からX線などをあてる外照射は、IMRTが普及している。従来は照射回数が20～39回で4～8週間の通院が必要だったが、5回で1週間の通院で治療が済む超寡分割照射を行う施設が増えている。

病院の実力「前立腺がん」

医療機関別2025年治療実績

（読売新聞調べ）

医療機関名	手術 (件)	放射線治療 (人)	IMRT (人)	超寡分割 照射 (人)
茨城				
土浦協同	63	86	86	0
水戸赤十字	52	64	64	0
県立中央	39	63	63	0
友愛記念	39	17	0	0
東京医大茨城医療セ	0	98	48	0
つくばセントラル	0	37	37	0
水戸済生会総合	0	23	23	0
千葉				
国立がん研究セ東	274	337	126	0
県がんセ	184	47	47	0
東邦大佐倉	138	59	59	0
亀田総合	126	21	21	0
千葉大	86	139	139	94
船橋市立医療セ	86	38	38	0
君津中央	82	34	0	0
千葉徳洲会	78	36	20	15
千葉西総合	71	29	28	0
帝京大ちば総合医療セ	68	6	6	0
新東京	62	0	0	0
慈恵医大柏	60	28	28	0
順天堂大浦安	59	60	60	0
国保旭中央	55	145	100	0
国際医療福祉大成田	53	20	20	0
千葉労災	49	5	5	0
成田赤十字	47	27	27	0
東京女子医大八千代医療セ	37	—	—	—
井上記念	25	0	0	0
栃木				
独協医大	145	3	0	0
自治医大	118	95	95	0
県立がんセ	99	15	15	0
那須赤十字	89	32	0	0
済生会宇都宮	80	85	85	0
国際医療福祉大那須医療セ	72	43	43	3
宇都宮記念	14	0	0	0

「セ」はセンター、「—」は無回答または不明

全国の調査結果は16日の「からだ」面に掲載しました。